

平成 29 年度 「学校関係者評価」 年度末評価

三つの柱	項目 (重点としたものに○をする)	学校が重点とした項目の目標達成状況及び学校の取り組みの適切さ	改善方策についての意見
I 授業づくり	① 授業力の向上	<p>・全体的にどの学年・学級も落ち着いて授業に取り組んでいる。教員一人ひとりが授業力向上に向けてがんばっている成果が出ているのだと思われる。</p>	<p>・授業のようすはよいのだが、全国学力・学習状況調査の結果として表れていない部分（算数など）もあるので、さらなる授業力向上の取り組みに取り組むとともに、子どもたち一人ひとりの学習状況も個別にしっかりと見ていくべきである。</p> <p>・今後も、地域や関係諸機関等とも連携し、よりよい教育活動に取り組んでいただきたい。</p>
	2 多様な教育活動の充実	<p>・小坪という地域性を生かした教育が適切にされている。</p>	
II 集団づくり	① 認め合う集団づくりをめざして	<p>・たてわり活動を中心とした「よりよい集団づくり」「認め合う集団づくり」は、成果を挙げていると思われる。全国学力・学習状況調査の質問紙や学校評価アンケートなどから、児童の実態を分析した上でその後の指導に活かしていることは適切である。</p>	<p>・忙しい学校生活の中で、まず教員がしっかりと子どもたちの話が聞いているかを再度確認してもらいたい。また、保護者も子どもたちの話をしっかりと聞くことで、学校でも家庭でも安心できる「居場所」を作ってあげることができるのだと思われる。</p>
III 学校組織づくり	① 支援教育の推進	<p>支援教育に力を入れて取り組んでいるようすがうかがえる。目標はある程度達成できていると思われる。目標はある程度達成できていると思われる。学校の立地条件や地域性等の諸条件も考慮し、また、地域とも連携した取り組みも行うことができている。</p>	<p>・社会で求められている人間像と、教育で育てる人間像が一致してきたように思われる。子どもたちが社会に出たときに、その時代にあった社会への順応性を身に付けられるよう、「今、求められている人間性」について保護者とも共有してほしい。</p>
	② 安全・安心に向けた取り組み	<p>・教員一人ひとりが研修・研究に向けて前向きに取り組むことができているようである。どの学級も授業が落ち着いてできており、子どもたちの表情も生き生きとしているのが、その成果が表れているものと思われる。</p>	<p>・小坪地域は、池子地域に次いで老人の割合が高い。子供と老人をいかに守るかが地域の課題となっている。地域も様々な問題を抱え大変であるが、子どもたちの安心・安全に向けた取り組みは、学校と地域がしっかりと連携していかなければならない。</p>
	3 研修・研究の充実		

	<p>4 開かれた学校づくり</p>	<p>・社会と連携・協働しながら学校運営に取り組むというまでにはまだ課題はあるが、現時点での学校としての取り組みはおおむね評価できる。</p>	<p>・来年度からは新学習指導要領への移行期間となるが、新学習指導要領は大幅な改訂となっている。学校として移行期間の対応をしっかりと確実に進めていくことが大切である。また、研修・研究したことが、授業・教室で十分に活かされていないと意味がないので、その点を教員が十分意識して進めてもらいたい。</p> <p>・学校関係者評価委員会・学校評議員会等の会議に、一般教員は授業があるため参加することが難しいが、時間帯を変えれば参加することも可能である。地域に職員を知っていただくよい機会であるので、検討して進めてもらいたい。</p> <p>・教員は、子どもたちの夢や未来に携わる仕事である。学校はプライドを持って、学校が主体となって、社会と連携・協働しながら、学校教育を進めて進めてもらいたい。</p>
--	------------------------	---	---